



# 廃止された直通特急復活を!

念する反対運動が高まり、詳細ルートが決まらず着工できない状態に陥っているのだ。昨年、京都府酒造組合連合会と伏見酒造組合が、京都府に対して「伏見の酒蔵が使用する井戸の深度と新幹線のトンネルの深度はほぼ一致するため、府内の酒蔵の地下水に影響を及ぼさないルートになるように国や関係機関に働きかけ」を求める要望書を提出。さらに宗派を超えた約1千100の府内の寺が加盟している京都仏教会は、「千年の愚行であり、再考を強く求める」と強い表現で批判した。

今年6月、京都市議会定例会において日本維新の会や国民民主党などでつくる合同会派や共産の議員らが提出した「京都市内大深度トンネルルート」への反対を表明する決議が賛成多数で可決。現行のルート反対の決議は初めてだ。さらに、綾部市の議会がルート再検討を国に求める意見書を賛成多数で可決した。

## つながらない線路は意味ない

小浜ルート決定から8年。「これだけ京都で紛糾しているのに、30年経ってもできるかどうかかわらない。」



# なぜ急ぐ! 京都大阪が望むまで待て

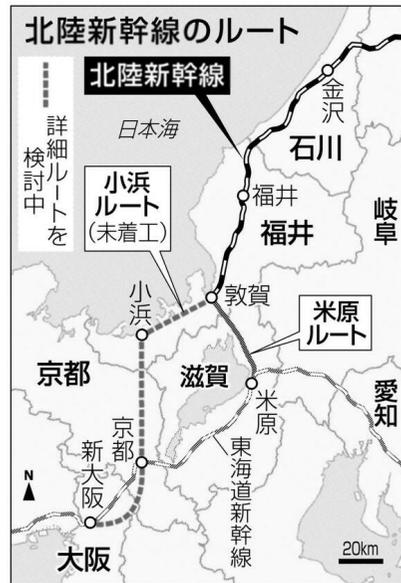
北陸新幹線小浜ルート早期着工に躍起の福井県

東京から敦賀までつながった北陸新幹線。残るは敦賀から新大阪まで。福井県は「次は小浜開業!」と小浜ルートの早期着工に向け氣勢を上げる。一方、京都府内での反発や建設費の高騰、さらには工期の延長を受け、石川県内では滋賀県を通る「米原ルート」への変更を求める声が強まっている。迷走する小浜ルート。福井県は今、何をすべきか。

## 詳細ルートすら決まらず混沌!

北陸新幹線の敦賀市から小浜市、京都市、京都府京田辺市を経て大阪市に至る約140キロの小浜・京都ルートは、2016年に与党プロジェクトチーム(与党P.T.)が決定した。小浜を通るルートは1

973年の整備計画決定以来、小浜市の悲願だった。当時の松崎晃治小浜市長は政治生命をかけた県議初当選から市民と力を集結して運動に取り組んできただけに、小浜ルート決定に「心から喜びたい」と、言葉少なに喜びを噛みしめた。与党P.T.は「23年度当初着工」を決議。しかし、22年末に国土交通省が沿線の一部地



域で環境アセスメントが進んでいないことから23年度当初の着工を断念することを明らかにした。さらに24年8月、工期が最長28年、建設費が最大5兆円と試算結果を示すも

年末、詳細ルートの決定を年明け以降に先送りすると発表。京都府で小浜・京都ルートの約8割がトンネルのため、地下水への影響や大量の残土処理、建設費の地元負担を懸